

| | | | | | | | |
|--------|-------------------|--------------------|-------------------------|----|---------------------------------|---------|-------------|
| 施策 | 81 | 交流による高付加価値化・国際化の推進 | 政策 | 8 | 山・里・街の魅力を高め、交流と連携によるグローバルなまちづくり | | |
| 施策主管課 | 企画課 | 課長名 | 串原 一保 | 内線 | 2220 | 政策担当部長名 | 総合政策部長 今村和男 |
| 施策関係課名 | リニア推進課、文化会館、広報情報課 | | | | | | |
| 重点施策 | ○ | 関連計画 | ・リニア将来ビジョン、三遠南信地域連携ビジョン | | | | |

1 施策の目的

| | | |
|----|----|--|
| 目的 | 対象 | 市民・行政 |
| | 意図 | ①飯田市や自分に無い知識や情報に触れ、相手にない情報を発信する ②市の付加価値を高め、国際化に対応していく |

2 現状把握

(1) 対象指標、成果指標の状況

| 対象指標 | | 単位 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 28年度 | | |
|--------------------------|-------------------------------|----|---------|---------|---------|---------|---------|---------|-------------|-------------|-----------|
| ① | 住民人口 | 人 | 105,335 | 104,728 | 103,947 | 103,105 | 102,446 | 101,743 | 100,957 | | |
| 成果指標 | | 単位 | 22年度 | 23年度 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 実績値 28年度 | 目標値 28年度 | 指標の 傾向 |
| ※成果指標の設定の考え方は別ワークシートにて整理 | | | | | | | | | | | |
| ① | 都市間交流に参加している市民の割合(三遠南信・中京圏除く) | % | 13.8 | 11.8 | 12.9 | 11.1 | 11.0 | 13.2 | 9.4 | 15 | △ |
| ② | 大学・海外等との「共同」プロジェクトの数 | 数 | 4.0 | 6 | 8 | 10 | 11 | 11 | 12 | 5 | ◎ |
| ③ | | | | | | | | | | | |

(2) 成果向上に向けての役割分担

| 主体 | 役割分担 | ムトス指標と把握方法と単位 | 24年度 | 25年度 | 26年度 | 27年度 | 実績値 28年度 | 目標値 28年度 | 指標の 傾向 | |
|----|--|---|------|------|------|------|-------------|-------------|-----------|---|
| 行政 | 市(国・県) ○新たな交流のきっかけづくりや支援をする(グローバルな視点を持つことができるような啓発活動を含む) ○リニア時代を見据え、付加価値を高め国際化に対応していくためのモデル的な事業に取り組む | ・姉妹都市・友好都市提携、政策連携・防災協定などを締結した団体・組織の数 ①友好都市②市政提携③政策提携(大学等との協定)④防災協定(協定締結した団体等数) | ① | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ○ |
| | | | ② | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | ○ |
| | | | ③ | 8 | 9 | 10 | 10 | 10 | 5 | ○ |
| | | | ④ | 205 | 212 | 214 | 214 | 214 | 200 | ○ |

| 主体 | 役割分担 | ムトス指標と把握方法と単位 | 役割発揮の特記事項(後期5箇年) | | | | | | |
|-----|--|--|---|--|--|--|--|--|--|
| 市民等 | ○積極的な交流によって、新たな知識や情報などの共有化を推進し、地域づくりに役立てる。 | ・国際交流団体の数 ・交流をして、組織の内外に情報発信をしている団体・グループの数 | ・人形劇フェスタは、市民やボランティアスタッフと国内外の人形劇関係者との交流が展開されており、AVIAMAへの参加など、国際化が進展している。 ・リニア時代を見据えて市民が参画するプロジェクトが、飯田市の魅力を効果的に伝える海外向けの紹介冊子を企画・作成した。 ・地域の企業が国の支援を受けて飯田市PR番組を制作し、台湾で放送するとともに、海外配信サイトにより同番組を海外配信した。 ・大学の持つ知見を市民自らが地域づくりに活かす一方、地域を「学びの場」として提供することによって飯田の市民主体の地域づくりが発信されている。 | | | | | | |

役割の発揮状況

| | | |
|---------|-----------------------------|---|
| 後期(5箇年) | 行政として多様な主体に対する協働の働きかけの取組と成果 | ・市民主体の人形劇フェスタ実行委員会、NPO法人いいだ人形劇センター等、市民による人形劇のまちづくりが全体的に進み、市民間における国際交流なども今後期待できる。 ・若い世代の市民が中心となって、リニア時代に何ができるのか自ら考え自ら行動する「南信州次世代会議」を、市民組織とともに立ち上げた。メンバーは、ライフスタイル、女性、子育て、介護といったそれぞれの視点から地域の将来を見据え、その上で魅力的な地域づくりに繋がる特徴的な活動を展開している。 ・地域と大学との継続的な学習交流をつくることによって、大学の知見を市民の自発的な地域づくりに活かすことができた。また、高校と大学との継続的な学習交流機会をつくり、高校教育に大学の知見等を活かすことができた。 |
| | 多様な主体の協働を推進していくための課題 | ・人形劇のまちづくりを通じた小さな世界都市の実現に向けて、多様な主体が連携した新たな展開を推進する必要がある。 ・リニア効果をより大きく地域の力としていくための、多様な主体の知恵の発揮と活動を促進する必要がある。 ・大学と地域の連携において、多様な主体が更につながり協働の取組が進展するための「仕組み」や「場」づくりが必要である。 |

3 施策を取り巻く状況変化・有識者等の意見

| | |
|--|--|
| <p>この施策に対して有識者等(議会、市民、関係者・団体等を含む。)からどんな意見や要望が寄せられているか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・2018年の世界人形劇フェスティバル、AVIAMA総会の開催により、人形劇のまちづくりを通じた小さな世界都市の実現に、積極的に取り組んでもらいたい。 ・ブランディング事業とシティプロモーション事業とも連携しながら推進されたい。 ・南信州次世代会議の展開の支援について評価する。リニア時代を見据え、若者をはじめ多様な方々の立場を超えた議論が必要であることから、引き続き、議論に係る行政の支援が行われることを願う。 ・飯田には、自慢するわけでもなく、でも悲壮感があるわけでもなく、旅人を受け入れたり、現状をありのままに受け入れる市民性や底力がある。 ・文化に対する目の肥え方や文化度の高さは、人とのコミュニケーション力や観察力に通じる。今後交流人口の増を進めていく上で重要な視点となる移住やマルチハビテーションを決める要因は、間違いなく、土地で出会った人であり、飯田にはそのポテンシャルがある。 ・大学間のネットワーク構築は進んでいると判断するが、フィールドスタディだけでなく、大学の知見が地域にどのように生かされているのかを成果として表す必要がある。 ・大学の知見、研究成果が地域に生かされ、人材育成や定住につながるような仕組みを構築されたい。 |
| <p>施策を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどのように変化しているか、更に今後どう変化するか。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・リニア時代において、人形劇のまちづくりによる「小さな世界都市」を実現させることによって、ブランド力の向上、高付加価値化へ結びつくことが期待されている。 ・平成27年8月14日に閣議決定された国土形成計画法に基づく「国土形成計画」にリニア中央新幹線による「スーパー・メガリージョンの形成」が位置づけられた。 ・飯田の価値や魅力を教育、研究の対象として訪れる大学研究者、大学生は増加傾向にある。 ・地域と大学との学習や交流の機会は増加傾向にある。 ・飯田市と協定を締結するなど、飯田市と連携していく意志を有している大学の数も増加している。 ・交流人口の増加や、産業をはじめとする地域の様々な分野で高付加価値化を目指す傾向は全国に広がっている。 ・三遠南信地域における新たな連携組織や取組についてサミットで宣言されている。 |

4 評価結果(後期5箇年)

(1) 実施した事務事業の評価(取組みの状況評価)

| | |
|-------------------------------------|-------------|
| <input type="checkbox"/> | 計画どおり取り組めた |
| <input checked="" type="checkbox"/> | おおむね計画どおり |
| <input type="checkbox"/> | あまり取り組めなかった |
| <input type="checkbox"/> | 達成できなかった |

(2) 施策全体の評価(外部要因も含めた総合的な評価)

| | |
|-------------------------------------|-----------|
| <input type="checkbox"/> | 進んだ |
| <input checked="" type="checkbox"/> | ある程度進んだ |
| <input type="checkbox"/> | あまり進まなかった |
| <input type="checkbox"/> | 進まなかった |

5 後期5箇年の取組評価(主に取り組んできた事項とその成果・成果が得られた要因)

【評価結果の理由】

- ・成果指標中、「都市間交流に参加している市民の割合」は、H28目標には届かない状況であるが、「大学・海外等との共同プロジェクト数」は、学輪IIDAの取組の拡大により指標も増加傾向にあり目標を大きく上回っている。
- ・この間の取組で、映画ロケ地としてのシティプロモーションや「焼肉のまち」としてのブランディングが進展している。
- ・人形劇のまちづくりにおける国際化の推進、公民館活動を通じたフィリピンレガスピ市のまちづくり支援、高校生のカンボジアツアーなど、国際化が推進しつつある。
- ・学輪IIDAをはじめとする大学・研究者・専門家との人的ネットワークが広がり、その活用による学習・交流機会の創出に取り組んだ。また、大学の専門的な知見を地域振興や人材育成にいかす取組や、大学等との共同プロジェクトの数も増えてきた。
- ・ロンドンビジネススクールの学生約120人を1泊(農家民泊)2日で受け入れ、東京や京都とは異なる「ニッポンの日本」の文化等を体験してもらった。
- ・これらのことを総合的に勘案し、全体として「ある程度進んだ」と評価する。

【事務事業群テーマ別の評価】

<都市間交流の意義啓発・発信>

[リニア推進対策事業]

- リニア時代に向けた発信力のある地域づくりとして、地域ブランドの確立に向けて地域の既存資源を棚卸しし、地域の個性を磨き上げるためファクトブック作成、飯田ランキングなど、土台づくりを行った。
- 「飯田」を知ってもらう活動として、「焼肉のまち飯田」をあらゆる媒体を通じ発信し、シティプロモーションを展開するとともにブランドづくりにもつなげた。また、映画のロケ地を誘致するなど「飯田」の情報発信に努めた。

[人形劇のまち国際化推進事業]

- 人形劇カーニバル、人形劇フェスタとして市民が作りあげてきた「人形劇のまち40年」を記念する年となるH30に、ヨーロッパ圏域外では初めてとなるAVIAMA総会が、世界フェスと併せて開催できることとなった。これにより、世界へ飯田を発信することができ、その成果が期待されることとなった。
- 国が進める学術研究都市をつなぐナレッジリンクの一翼を担う地域となるべく、地方創生における重要テーマともなる「知の拠点」づくりの取組を進展させた。

<国際化の推進>

- 長年にわたるJICA研修生の受け入れがきっかけとなったフィリピンレガスピ市への住民自治の仕組みの支援と交流活動は、改めて飯田の自治のしきみを見直す機会となるとともに、次世代の公民館活動や住民自治の担い手層が育成されている。
- 次世代を担う高校生を対象としたカンボジア・スタディーツアーは、地域に誇りと愛着を持ちながらグローバルな視点で飯田を捉え、地域の将来ビジョンを描ける人材の育成を目的に実施してきた。

<大学等との連携強化>

[大学とのネットワーク構築事業]

- 4年制大学が無いなか、フィールドスタディや学輪IIDAの取組などを通じて、この地域に無い知識や情報を有している大学、研究者とのネットワーク構築を進めた。
- 飯田が必要とする情報や知識を有している大学との協定締結を通じて、継続的な連携を図る基盤をつくった。
- 知のネットワークを活用し、大学・研究者が有している知識や情報を、地域振興や人材育成につなげる取組を進めた。(域学連携・高大連携、共同プロジェクト)
- 各大学の調査報告書や学輪IIDA機関誌の発刊などを通じて、飯田の価値を客観的に評価し、広く発信してきた。

6 上記の取り巻く状況の変化等を踏まえ、かつ、リニア時代を見据えた上での課題・その課題に取り組む際の方向性(有効策)

<都市間交流の意義啓発・発信>

[リニア推進対策事業]

○リニア中央新幹線開通は人口流動化時代における人口誘導の最大のチャンスと捉え、開通までに「飯田を目的地」とするための魅力(磁石)づくりとして、地域資源探索から地域ブランドの立ち上げに取り組む。

○シティプロモーション活動として、首都圏等においてメディア関係者等を対象に飯田の魅力を伝える活動を行い、あるいはWeb関連の取組(Webの多言語化、SNSの活用等)を強化する中で、飯田の魅力が多面的・効果的に情報発信していく。

[人形劇のまち国際化推進事業]

○2018年は、人形劇フェスタ20周年、第1回人形劇カーニバルから40周年の節目を迎えることから、飯田にて世界人形劇フェスティバル、AVIAMA総会を開催し、国内外の人形劇に取り組んでいる都市等との交流を深化させる。

○AVIAMAへの参画を通して、加盟都市間の交流を行うとともに、人形劇に係る飯田の取り組み状況等を情報発信する。

○国が進める国際戦略であるスーパーメガリージョンにおけるナレッジリンク(知的対流)の一翼を担う「知の拠点」づくりをさらに進め、産業振興や地域振興につなげる。

<国際化の推進>

○フィリピンラサピ市との支援と交流に見られるように、飯田市独自の実践が世界に届く価値となるなど、飯田市発の「世界モデル」によって「小さな世界都市」を実現していく。

○飯田下伊那の高校生を対象に、海外に学び、将来を考えるという一連の学習活動を推進しグローバル人材を育てる。

<大学等との連携強化>

[大学とのネットワーク構築事業]

○フィールドスタディは、当地域のまちづくりの土壌となっている「結の精神」をテーマにした複数大学による共同学習の実施など、当地域の多様な分野に実践者をもつ特性を活かしつつ、より学生が能動的に学べるようカリキュラム(教育課程)を工夫し実施する。

○域学連携の取組は、地域の特産品等を通じた地域振興に大学に関わっていただくなど更に連携を進めることで、地域課題の解決や魅力ある地域づくりに大学の知見を活かしていく。また、高大連携の取組は、連携高校の輪を広げつつ内容の充実を図りながら、高校生が大学の知見等に触れる機会や大学生と共に学ぶ機会等を積極的ににつくっていく。

○学輪IIDA機関誌「学輪」の発刊やホームページ等を通じて、当地域における大学連携の実績や成果等を、地域内外に積極的に情報発信していく。

○学輪IIDAなどの知(人財)のネットワークを活用しながら、国が進める「スーパー・メガリージョン」の形成におけるナレッジリンクの一翼を担える「知の拠点づくり」を進めていく。